

7月6日は、サラダ記念日。

歌人の俵万智（たわら まち）さんが、バブル景気絶頂の1987年に表した第1歌集『サラダ記念日』（河出書房新社）には、＜「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日＞と言う一首があります。他にも新鮮な言葉で若い男女の機微を表現し、空前のベストセラーになった歌集です。

それまで二人の記念日と言えば、「結婚した日」が多かったように思います。しかし、時代が変化するにつれ、日本人の日常にも、多彩な記念日が溢れるようになったのではないのでしょうか。

さて、最近、ショッピングセンターなどで、浴衣売場を目にするようになりました。そこには、さまざまな色や柄の浴衣が勢揃いし、夏の風情を醸し出しています。熱心に親子で品定めをする姿は、微笑ましい気持ちになります。そんな親子の姿を見ていたら、ふと、娘と浴衣を着て、お店でランチをした日のことを思い出しました。

ある夏の日。浴衣を自分で着られるようになりたくて、家で練習していた時のことです。当時小学2年生だった娘が、そんな私の様子を興味深そうにずっと見ていたので、娘にも着せてみました。すると、娘は、浴衣でうろうろしては、鏡に自分の姿を何度も映し出しているではありませんか。そんな娘の喜喜とした様子を見ていたら、何だかそのまま外へ連れ出したくなったのです。

その日は、花火大会でも、お祭りでもない普通の日でした。でも、せっかくだからと浴衣のままランチに出かけてみました。すると、思いの外、出会った人たちは、「かわいいね」などと、温かな微笑みとともに、娘に声をかけてくれるではありませんか。私は、自分の手で浴衣を着ることができた嬉しさと、娘にも浴衣を着せることができた上に、それを喜ぶ娘の姿を見ることもできて、最高にしあわせな気持ちになったのを覚えています。だからこの日は、私と娘にとって、まぎれもなく、「浴衣記念日」になったのです。

ちなみに、新学習指導要領には、教育基本法の理念に沿い、中学校家庭科において「和服の基本的な着装を扱うこともできること」と示されています。浴衣を着ることは、日本の伝統文化に触れることでもあるわけです。

梅雨が明ければ、夏祭りや花火大会のシーズンがやって来ます。気に入った浴衣を親子で着て、「風物詩」の中に溶け込んでみるのはいかがでしょうか。



日本の夏の良さが見えて来るかもしれません。また、浴衣に限らず、この夏、親子や家族で、しあわせな「〇〇記念日」が生まれるといいですね。【A】

〇メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

〇メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索